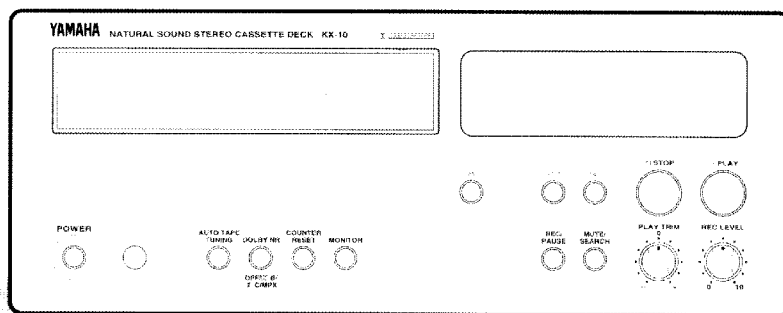
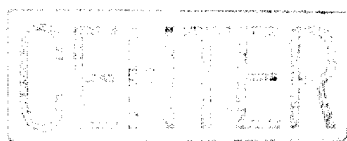


# YAMAHA

## NATURAL SOUND STEREO CASSETTE DECK

# KX-10

取扱説明書



このたびは、ヤマハステレオカセットデッキKX-10をお買い求め  
いただきまして、まことにありがとうございます。

本機の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用  
いただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みく  
ださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

# 目次

ご使用上の注意	2	高音質で録音するために	10
付属品	3	曲の頭出しに便利なテープを作る	11
特長	3	録音を開始した位置まで戻る	11
接続のしかた	3	テープカウンターをリセットした位置まで戻る	11
各部の名称と働き	4	カセットテープについて	12
再生のしかた	5~7	ヘッドの清掃	13
基本操作	5	リモコンについて	13
曲の頭出し	7	仕様	13
録音のしかた	8~12	故障かなと思ったら	14
基本操作	8	ヤマハホットラインサービスネットワーク	15

## ご使用上の注意 ⚠

### ■ 電源

国内のみでご使用ください。  
家庭用電源コンセント(AC 100V)に接続してください。  
\* 上記以外の使用は故障や事故の原因になります。

### ■ 電源コード

電源コードをひっぱらないでください。(プラグを持って抜いてください。)

電源コードの上に重いものをのせないでください。  
\* 電源コードが断線したり、感電の原因になります。

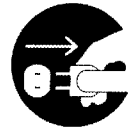
### ■ 本体

キャビネットは開けないでください。  
本体内に金属類(針・硬貨など)を落とさないでください。本体内に液体(水・アルコールなど)をこぼさないでください。  
本体内に燃えやすい物(紙・布など)を落とさないでください。  
\* 火災・感電・故障の原因になります。



### ■ 設置場所

不安定な台の上や、傾いた所には置かないでください。  
\* 落下すると危険です。  
湿気の多い所、ほこりの多い所には置かないでください。  
直射日光のあたる所、温度の高い所、極端に寒い所には置かないでください。  
\* 動作不良や故障の原因になります。  
■ 長期間使わない場合  
旅行や外出などで留守にされる場合は、安全のために電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。  
\* 不慮の事故で火災の原因となります。



<b>高温・低温はさけて!</b> 窓際や直射日光の当たる場所 暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・ 温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)はさけてください。	<b>国内のみ使用可</b> 家庭用電源コンセント AC100V	<b>ほこり・水気をさけて!</b>
<b>不安定な場所をさけて!</b>	<b>薬物厳禁</b>	<b>開けないで!</b>
<b>ヘッドの清掃を</b> 13ページの「ヘッドの清掃」をご覧ください。	<b>こわれた?</b> 14ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。	<b>取扱説明書はかならず保管してください。</b> ファイルなど
<b>引っばらないで!</b>	<b>エンドレステープは使わないで!</b>	

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

## 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。  
静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけています。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホーンをご使用ください。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに快適な生活環境を守りましょう。

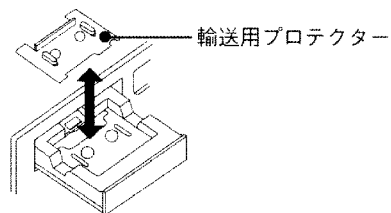
## 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがあります。保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

あなたが録音したテープは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断での使用は禁止されています。

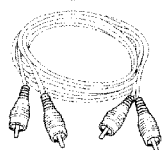
## 輸送用プロテクターについて

輸送中の破損を防ぐために、カセットトレイの中にプロテクターが入っています。ご使用前に、必ずこのプロテクターを取り外してください。また、再度輸送する際には必ずこのプロテクターを元の位置に正しく入れてご使用ください。



## 付属品

付属品を確認してください。



ピンプラグコード x 2

## 特長

### ■ 音質重視の機能

- 3ヘッドシステムを採用
- ドルビー-HX Proおよびドルビー-B/Cノイズリダクションを搭載
- 他のデッキとのより良い互換性を実現するプレイトリムコントロールを装備
- 使用するテープごとの特性に合わせて自動的に録音バイアスなどを調整するオートテープチューニング機能

### ■ 操作性重視の機能

- オートテープセレクト搭載
- ピーク保持機能つきピークレベルメーター

### ■ 再生時の機能

- 前後1曲頭出し

### ■ 録音時の機能

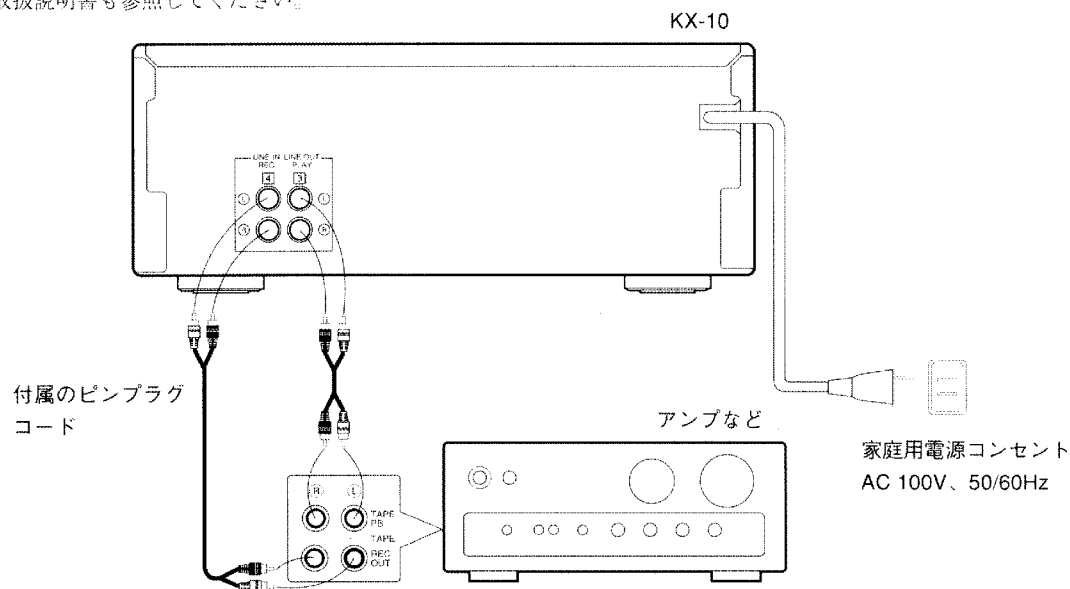
- レックミュート(曲間で4秒間の無録音部分をつくる機能)
- レックリターン(録音を開始したところへもどる機能)
- ゼロリターン(テープカウンターをリセットしたところへ戻る機能)

## 接続のしかた

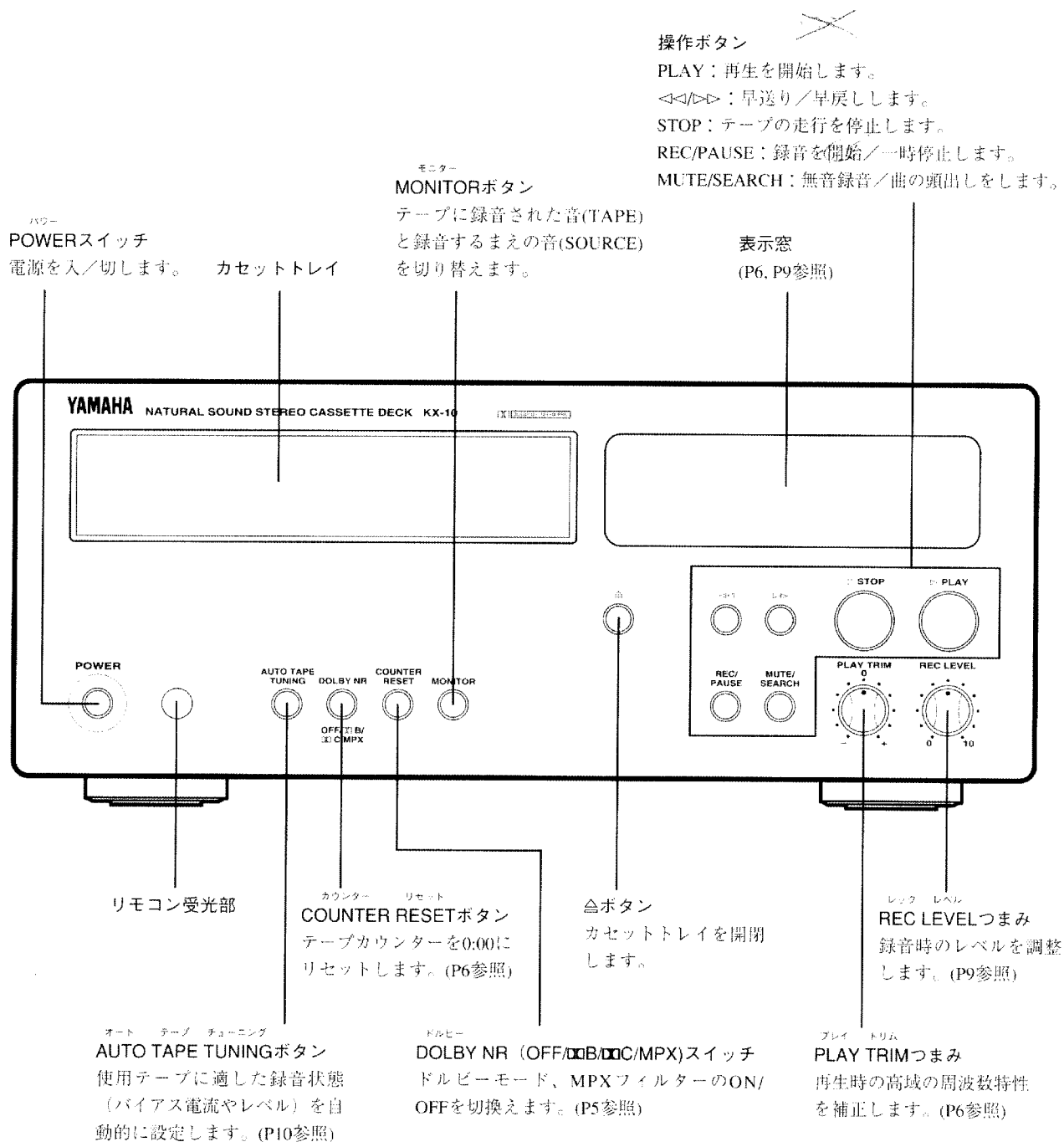
- 接続の際は各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認し、付属のピンプラグコードで確実に接続してください。
- 接続するアンプによっては端子名などが異なります。接続するアンプの取扱説明書も参照してください。

ヤマハAX-10をご使用の場合は、各機の③と④の番号がついた端子をそれぞれ接続してください。

- 接続が完了したら、電源コードを家庭用電源コンセントまたはアンプなどの背面の電源コンセントに差し込んでください。



# 各部の名称と働き



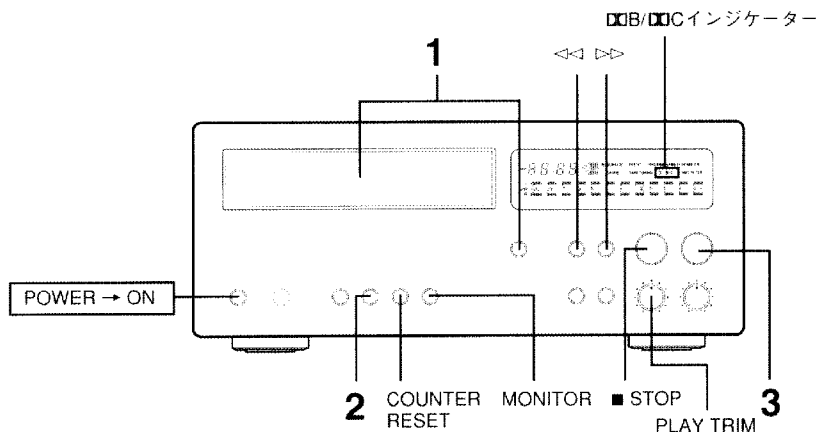
# 再生のしかた

## 再生の準備

- POWERを押して電源をONにします。
- アンプの入力をテープにします。

説明文中の □□B/□□C はボタン、端子などの名称です。

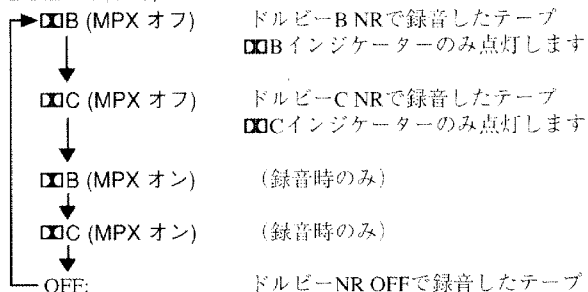
## 基本操作



<p><b>1</b></p> <p>再生したいテープを、テープがじかに出ている面を奥に、再生したい面を上にしてカセットトレイにのせて下さい。△を押して、トレイを閉じます。</p>	<p><b>2</b></p> <p>録音時に使用されたドルビーノイズリダクションに合わせて下さい。(下記の説明を参照してください。)</p>	<p><b>3</b></p> <p>PLAYを押すと再生が始まります。</p>
--	---	--

## DOLBY NRのセット(手順2)

DOLBY NRを押すたびに、次のように切り替わります。

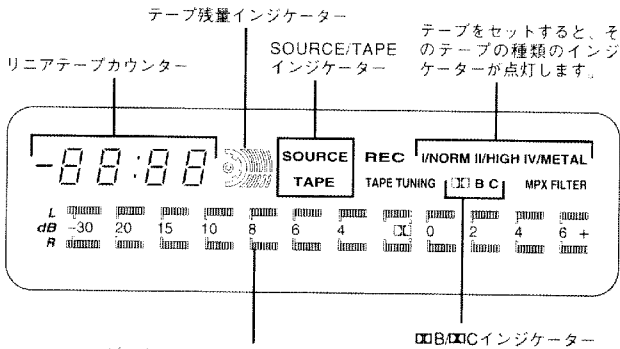


注意) MPXフィルターのセットについては8ページを参照してください。

\* ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。DOLBYおよびダブルD記号□□はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。

- 正しくセットしないと不自然な音になりますので注意してください。

## 再生時のディスプレイ



ピークレベルメーター  
再生中(または録音中)に、-30dBから+6dBの範囲で信号レベルのピークを表示します。左右それぞれのチャンネルについて、メーターが独立しています。ピーク値を読み取りやすいように、1.5秒間ピークレベルを表示し続けるピーク保持機能があります。(ピークホールドは-10dBから+6dBの間のレベルで働きます。)

### 早送り

▶▶を押します。

### 早戻し

◀◀を押します。

### 音量の調節

アンプで音量を調節します。

### 再生を止める

□STOPを押すと止まります。カセットテープを取り出すには、△を押します。

本機を使わないときは、POWERを押して電源を切ってください。

### リニアテープカウンター

テープの走行距離を、時間方式で表示します。(99分59秒から99分59秒まで表示。)テープの位置を知る目安としてお使いください。

リニアカウンターを0:00に戻すにはRESETを押してください。

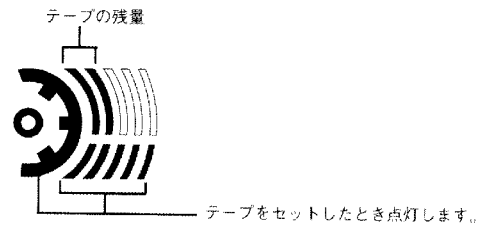
注意) テープカウンターの精度

テープカウンターは時計ではありませんので、実際のテープの走行時間とは多少の誤差が生じます。(これは録音・再生時のみならず早送り・早戻し時の時間表示をも可能にするために避けることのできないものです。)誤差の程度は、使用するテープのサイズ(長さ)により異なります。

## テープ残量インジケータ

再生中のテープの残量を示します。

テープエンドになると、左端のインジケータが点滅します。



注意) このテープ残量インジケータの動作は使用するテープの長さ、種類、ハブの大きさによって異なる場合があります。あくまでも、テープ残量を知る目安としてお使いください。

## モニター機能について

テープの再生中は、テープモニターモードが自動的に選択され、デッキ側の音声信号を出力します。(TAPEインジケータが点灯します。)このときMONITORを押してソースモニターモードに切り替えると、スピーカーの音は消えます。(SOURCEインジケータが点灯します。)

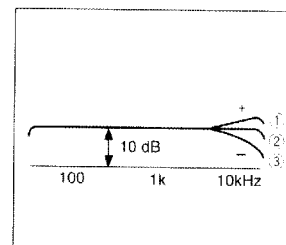
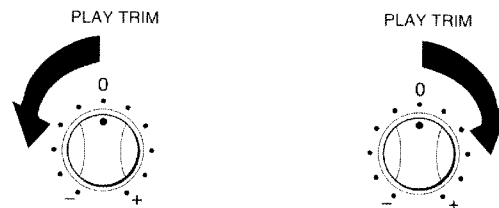
テープを再生するときは、MONITORを押してTAPEインジケータが点灯するようにしてください。

## プレイトリム

他のカセットデッキで録音したテープを再生したときに、高域が強調されすぎたり、逆に弱かったりする場合には、高域の特性をPLAY TRIMで調整してください。

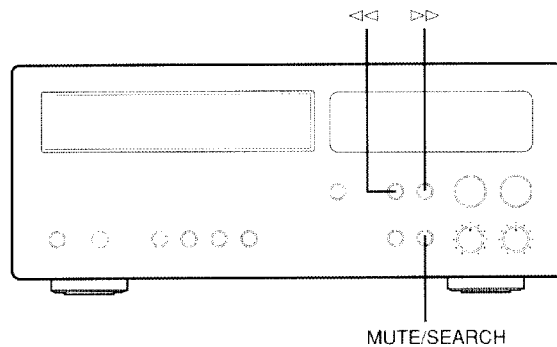
高域の音が強調されすぎていてうるさく感じる場合には、高域のレベルを下げます。

高域がもの足りない場合には、高域を上げます。



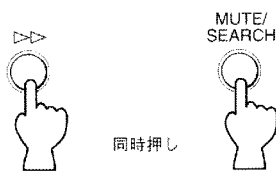
- ① 高域が強すぎる。
- ② 平坦
- ③ 高域が弱い。

## 一曲の頭出し



### 次の曲の頭出し

>>>とMUTE/SEARCHを同時に押します。



#### 曲の頭出しに関する注意点

- 頭出しは曲と曲の間の無録音部分を探すことで機能します。無録音部分は少なくとも4秒間必要です。録音するときに4秒間の無録音部分をつくっておくと、再生時に頭出し機能が使えて便利です。無録音部分の作り方については11ページを参照してください。
- 無録音部分が4秒以下のテープ、雑音の大きいテープや音のレベルが非常に低いテープまたは、フェードイン、フェードアウト録音されているテープでは誤動作することがあります。

### 今の曲、または前の曲の頭出し

<<<とMUTE/SEARCHを同時に一度押すと今の曲の頭に移ります。今の曲の頭から数秒以内にもう一度<<<とMUTE/SEARCHを押すと、その前の曲の頭に移ります。



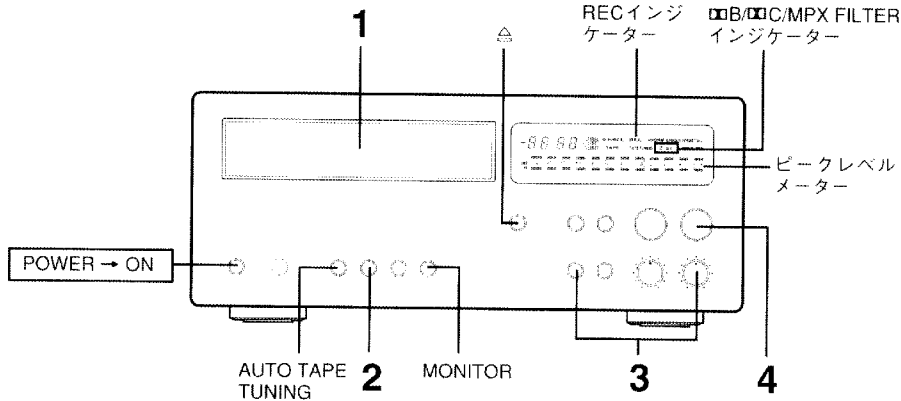
# 録音のしかた

## 録音の準備

- POWERを押して電源をONにします。

説明文中の△、□、○はボタン、端子などの名称です。

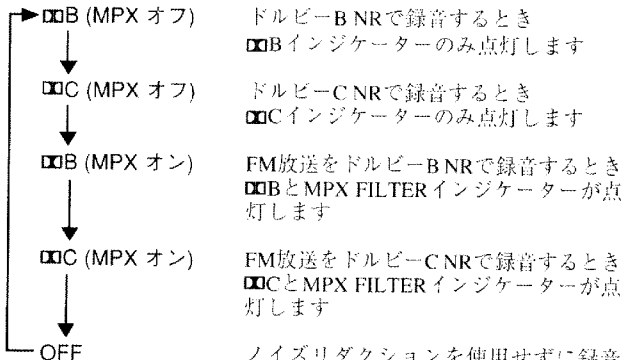
## 基本操作



<p><b>1</b></p>	<p>録音に使用するテープを、テープがじかに出ている面を奥に、録音したい面を上にしてカセットトレイにのせて下さい。△を押してトレイを閉じます。</p>	<p><b>2</b></p> <p>DOLBY NR</p> <p>OFF</p> <p>DOLBY NRでノイズリダクションをセットします。(下記の説明を参照してください。)</p>
<p><b>3</b></p> <p>REC/PAUSE</p> <p>REC/PAUSEを押します。ディスプレイのRECインジケータが点灯し、録音スタンバイ(レックスタンバイ)になります。</p>	<p>録音するソース(ラジオ放送やCDなど)を流し、REC LEVELで録音レベルを調節します。(次ページの説明を参照してください。)</p>	<p><b>4</b></p> <p>▷▶ PLAY</p> <p>PLAYを押すと録音が始まります。</p> <p>REC LEVEL</p> <p>0 10</p>

### DOLBY NRのセット(手順2)

DOLBY NRを押すたびに、次のように切り替わります。



### MPXフィルターについて

FM放送では、放送用の電波とともに19 kHzのパイロット信号を送信しています。チューナーおよび電波の状態によっては、このパイロット信号が音声出力に紛れこみ、ドルビーNRシステムの動作に悪影響をおよぼすことがあります。

MPXフィルターを用いることによって、このパイロット信号を除去することができます。

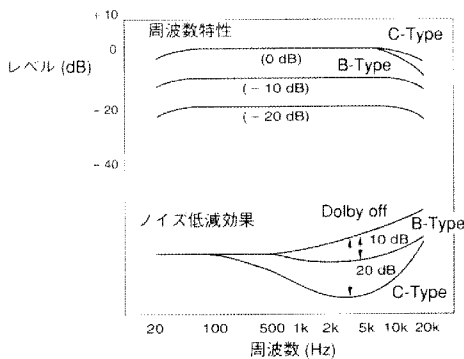


### ドルビーNRについて

カセットテープの場合、高音域でのテープのヒスノイズが主な雑音源になります。このヒスノイズを減らすため、本機ではドルビーB NRまたはドルビーC NRを使用できます。

ドルビーB NRでは、高域周波数において約10dBの改善効果がありますが、ドルビーC NRでは、人間の耳が最も敏感な帯域(2 kHzから8 kHz)で約20 dBの改善効果が得られ、さらに10kHz以上の帯域では、テープの高域MOL(最大録音レベル)特性を改善することができます。

下図は、ドルビーB NRとドルビーC NRで録音・再生したときの周波数特性とノイズ低減効果を表したものです。



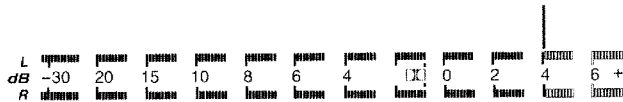
なお、ドルビーNRシステムは録音/再生の両過程で働くので、再生時には録音したときのドルビーNRの設定と同じ状態にしてください。

### 録音レベルの調節(手順3)

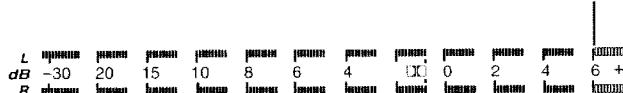
録音レベルの調節は、雑音や歪みの少ないきれいな音で録音するための重要なポイントです。レベルが低すぎるとテープの雑音(ヒスノイズ)が耳につき、逆に高すぎると音は歪み、特に高音がきれいに録音できません。

一番大きな音が入ったときのピークレベルメーターの振れが、ノーマルポジションまたはハイポジションのテープに録音するときは+4 dB、メタルポジションテープに録音するときは+6 dBを越えないように、REC LEVELを回して調節してください。

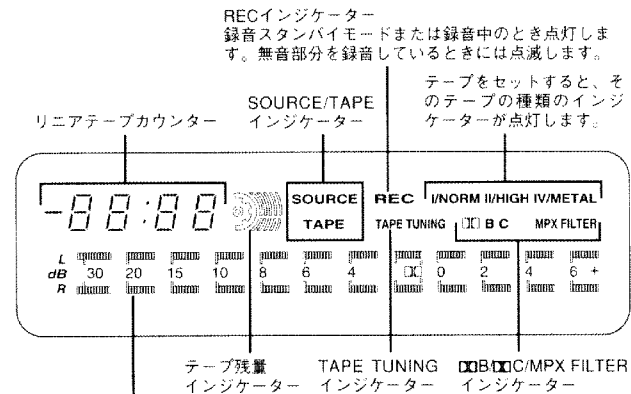
ノーマル、ハイポジションテープのピーク値



メタルポジションテープのピーク値



### 録音時のディスプレイ



### リアテープカウンター

テープの走行距離を、時間方式で表示します。(99分59秒から99分59秒まで表示。)テープの位置を知る目安としてお使いください。

リアカウンターを0:00に戻すにはRESETを押してください。

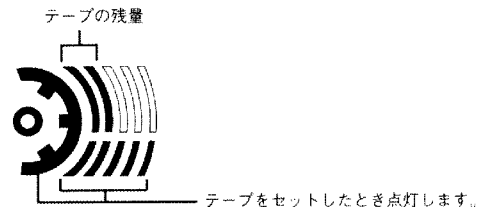
### 注意) テープカウンターの精度

テープカウンターは時計ではありませんので、実際のテープの走行時間とは多少の誤差が生じます。(これは録音・再生時のみならず早送り・早戻し時の時間表示をも可能にするために避けることのできないものです。)誤差の程度は、使用するテープのサイズ(長さ)により異なります。

### テープ残量インジケータ

録音中のテープの残量を示します。

テープエンドになると、左端のインジケータが点滅します。



注意) このテープ残量インジケータの動作は使用するテープの長さ、種類、ハブの大きさによって異なる場合があります。あくまでも、テープ残量を知る目安としてお使いください。

### 録音の一時停止(レックポーズ)

REC/PAUSEを押します。録音するソースを変えたとき、録音レベルの再調節ができます。録音を再開するには▷ PLAYを押します。

### 録音を止める

□ STOPを押すと止まります。カセットテープを取り出すには、△を押します。

### 3ヘッドモニターシステム

本機は3ヘッドシステムを採用しており、録音を行いながらテープに録音された音をモニターすることが可能です。MONITORを押すたびに、再生音がテープに録音された音声(TAPE)と録音されるまへの音声(SOURCE)との間で切り替わります。録音しながら原音と聴きくらべて、より原音に近い音声となるよう、録音状態を調節できます。

テープに録音した音声を聴く

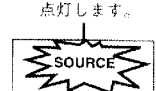
MONITOR



点灯します。

ソースの音声を聴く

MONITOR



点灯します。

## — 高音質で録音するために —

本機は、オートテープセレクトターおよびドルビーHX Proダイナミックサーボシステムを搭載しています。オートテープセレクトターはテープの材質によって録音特性を変更し、ドルビーHX Proダイナミックサーボシステムは録音中に有効バイアス値を自動的に調節します。

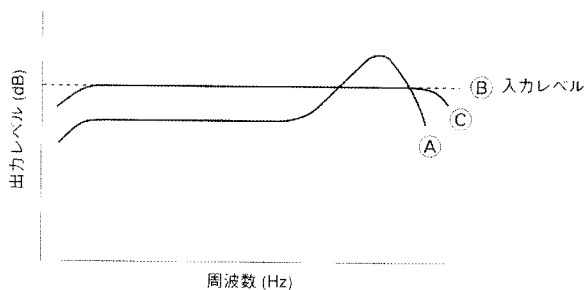
これらの機能に加えて、オートテープチューニング機能を用いることにより、より高音質での録音が可能となります。オートテープチューニングとは、個々のテープに対して録音時のバイアス電流とレベルとを調節する機能です。

### オートテープチューニング機能

この機能は、使用するそれぞれのテープに対して録音バイアスとレベルをより正確に設定することで、録音特性を改善します。挿入したテープの特性に精密に合わせるために、録音と再生とを約20秒間同時に行い、2種類の周波数帯(500 Hzおよび10 kHz)において録音特性(録音バイアスおよびレベル)を自動的に調整します。

たとえば、録音された音(出力)のレベル(図A)は録音するソース(入力)のレベル(図B)とは下図のように異なる場合があります。これは、カセットテープの製造メーカーによりテープの特性がかなり異なっているためです。

オートテープチューニング機能を用いることにより、この相違を効果的に取り除くことができます。すなわち、高周波数帯域におけるバイアス電流と全周波数帯域におけるレベルを、使用するカセットテープに応じて調節することで、全般的な音質を非常に効果的に向上させています。(図C)



### 操作方法

1. PLAY TRIMを0の位置に合わせます。
2. REC PAUSEを押し、録音スタンバイモードにします。  
— REC LEVELで録音レベルを調節します。 — トリム
3. AUTO TAPE TUNINGを押します。

TAPE TUNINGインジケーターが点滅し、約20秒間で挿入されたテープに最適な録音特性(バイアスおよびレベル)に調節します。オートテープチューニングが終わると、テープは自動的に初めの位置に巻き戻され、デッキは再び録音スタンバイモードになります。このとき、TAPE TUNINGインジケーターは点灯しています。

- いたんだ状態や品質の悪いテープではオートテープチューニングは機能しません。その場合、動作は途中で中止されTAPE TUNINGインジケーターは点灯しません。
- TAPE TUNINGインジケーターが点灯している間は、設定した録音特性は保持されています。設定をキャンセルするには、録音スタンバイモード中または停止中にAUTO TAPE TUNINGを押してください。

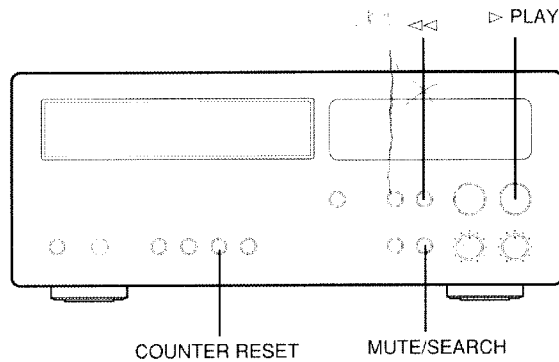
### ご注意

同じ種類のテープであっても製造メーカーが異なる場合は、AUTOTAPE TUNINGインジケーターが点灯していても、オートテープチューニングの設定をもう一度やり直してください。

### ドルビーHX Proダイナミックサーボシステム

本機はドルビーHX Proシステムを搭載しています。録音をする際、録音ヘッドには音楽信号とともにテープの種類に合わせたバイアス電流が流れています。このバイアス電流は少なすぎると歪みが増加し、必要以上に多くなると音楽信号の高域成分を劣化(ハイ落ち)させる働きがあります。ドルビーHX Proは入力信号の周波数成分とレベルに応じてバイアス量が最適になるように自動的にコントロールしますので、高域のダイナミックレンジや周波数特性が改善されます。また、ドルビーHX Proはノイズリダクションシステムではなく録音時にのみ自動的に働くシステムであるため、ドルビーHX Proを搭載していないデッキで再生しても何ら効果は変わりません。

ドルビーノイズリダクションおよびHX Proヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HX Proはバンク&オルフセンの開発によるものです。



## 曲の頭出しに便利なテープを作る

(オートレックミュート)

曲と曲の間に適当な無録音部分（4秒間）をつくっておくと、再生するとき曲の頭出しができて便利です。

録音中、無録音部分をつくりたいところでMUTE/SEARCHを押します。



RECインジケーターが点滅し、4秒間の無録音部分を自動的につくったあとレックポーズになります。（RECインジケーターは点灯。）

再び録音を始めるには、▷PLAYを押します。

- 4秒以上の無録音部分をつくるにはMUTE/SEARCHを押し続けます。ボタンを放してから4秒間の無録音部分をつくったあとレックポーズになります。

## 録音を開始した位置まで戻る

(レックリターン)

ある部分の録音をやり直したいときや、録音状態をチェックしたいときなど、録音を開始した位置まで戻ることができます。

録音中またはレックポーズ中に◀◀を押します。



録音を始めたところまで巻き戻され停止します。録音モードは解除されてしまうので、再び録音を始めるにはREC/PAUSEを押してから▷PLAYを押します。

- 録音中に▷PLAYを押すとその位置が記憶され、上記の操作で▷PLAYを押した位置まで戻ります。

▷PLAYを数回にわたって押した場合には、最後に押した位置が記憶されます。

## テープカウンターをリセットした位置まで戻る

(ゼロリターン)

あとで再生を開始したい位置をあらかじめ指定しておき、その位置まで自動的に戻ることができます。

録音中またはレックポーズ中にCOUNTER RESETを押し、テープカウンターを0:00にセットします。



録音を続けている間に◀◀を押すと、0:00の位置まで巻き戻され停止します。録音モードは解除されてしまうので、再び録音を始めるにはREC/PAUSEを押してから▷PLAYを押します。

COUNTER RESETを数回にわたって押した場合には、最後に押した位置が記憶されます。

## CDシンクロ録音機能

リモコンにSYNCHROボタンのついているヤマハのCDプレーヤーと組み合わせて使うと、CDシンクロ録音ができます。この機能は、CDプレーヤーのリモコンを用いて操作します。

(詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。)

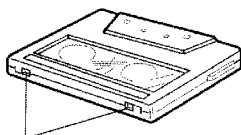
## カセットテープについて

カセットテープには多種多様な製品がありますが、その構造については規格が統一されており、各メーカーのものが共通に使用できます。

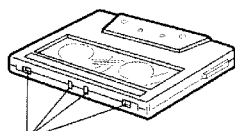
\* C-120テープはテープが薄いため、音質面でも音楽の録音には適当ではありません。

### カセットテープの材質による種類とカセットハーフの構造

カセットテープは磁性材質によって特性が異なります。そこで、そのテープにあったバイアス値とイコライザー特性を選択する必要があります。本機はオートテープセレクト機能を内蔵していますので、カセットテープを装着するだけでそのテープに最適なバイアス電流とイコライザー特性、テープ感度に自動的に切り換わり、それぞれのテープの性能を発揮させることができます。テープの種類を検出には図のような検出用の穴を利用しています。



ハイポジションテープ  
検出用の穴

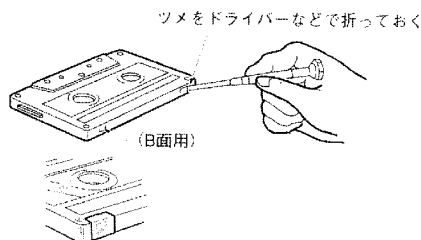


メタルポジションテープ  
検出用の穴

- \* カセットハーフに検出用の穴がないテープ（旧タイプのメタルポジションテープなど）ではオートテープセレクトが働きません。
- \* 旧タイプのメタルポジションテープ（検出穴のないもの）を使用すると、ハイポジションで録音・再生されます。テープによっては録音しても前の音が残ったり、音が歪むことがあります。

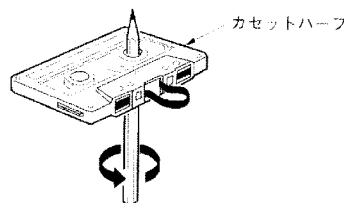
### 録音内容の保存

カセットハーフには大切な録音を誤って消さないように、消去防止用の穴があります。消去防止には、録音後この穴のツメをドライバーなどで取り去ります。ツメを折ったテープに再び録音するには、セロハンテープなどで穴をふさいでください。このとき、検出用の穴をふさいでしまわないよう注意してください。



### テープのたるみを直す

テープがたるんだり、飛び出したまま使用すると、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみつく原因になります。このような場合には、カセットハーフのリール軸に鉛筆などを差し込んでテープを巻き取り、たるみを直してから使用してください。



### カセットテープの保管

再生／録音途中のテープは早送りや巻戻しをして、完全に片方の軸に巻取ってからカセットケースに収納してください。保管場所は直射日光の当たる場所（高温）、湿気や磁気のあるところ（テレビやスピーカーの近く）を避けてください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音内容を消すことがあります。

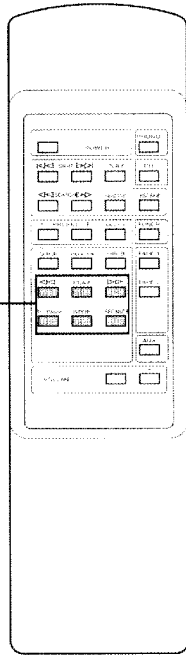
## ヘッドの清掃

デッキを長時間使っていると、キャプスタン、ピンチローラーおよびヘッドの汚れや帯磁が原因で音がかすれたり、ノイズが入ったり、音がふるえたりします。市販のクリーニングテープ、ヘッドイレイサーを使って定期的にクリーニングや消磁をしてください。また、特に大切な録音をするとき、古いテープを使ったあとにも清掃することをおすすめします。

- 録音、再生のトータル時間がおよそ10時間になるごとにヘッド部分の清掃をしてください。
- 消磁は20～30時間をめやすに行なってください。

## リモコンについて

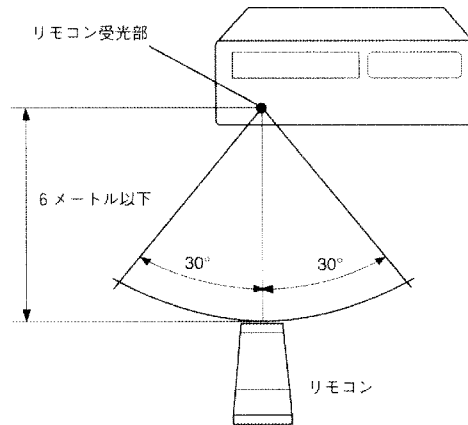
本機は、ヤマハステレオプリメインアンプAX-10に付属のリモコンによって操作することができます。



これらのボタンを本機の操作に使用できます。

- PLAY：再生をスタートさせます。
- ◀◀：◀◀方向の早送りをします。
- ▶▶：▶▶方向の早送りをします。
- STOP：再生または録音の停止をします。
- REC MUTE：録音中に無録音部分を作るときに押します。
- REC/PAUSE：録音一時停止状態になります。

### リモコンの使用範囲



## 仕様

■形式	4トラック、2チャンネル 録音・再生カセットデッキ	入力レベル/インピーダンス 出力レベル/インピーダンス S/N比	LINE IN: 100 mV/50 kΩ LINE OUT: 570 mV/2.2 kΩ Dolby NR OFF: 56 dB Dolby B NR: 64 dB Dolby C NR: 72 dB
■メカニズム部 ワウフラッタ	0.05% W.RMS ±0.08% W.PEAK (EIAJ)	歪率	0.8%(315 Hz、3rd)
早送り・早戻し時間 モーター	約95秒 (C-60使用時) DCサーボモーター (キャプスタン) DCモーター x 2 (リール、トレイ)	セバレーション クロストーク	40 dB以上 (3150 Hz、EIAJ) 55 dB以上 (125 Hz、EIAJ)
■ヘッド部 録音ヘッド 再生ヘッド 消去ヘッド	ハードパーマロイ x 1 ハードパーマロイ x 1 ダブルギャップフェライト x 1	■総合 定格電源 定格消費電力	AC100 V、50/60 Hz 14 W 5 W (パワーオフ時)
■アンプ部 録音方式 消去方式 総合周波数特性	交流バイパス方式 (160 kHz) 交流消去方式 (160 kHz) 20 - 17,000 Hz ±3 dB (ノーマル、-20 dB) 20 - 18,000 Hz ±3 dB (ハイ、-20 dB)	外形寸法(幅x高さx奥行) 重量 付属品	280 x 119 x 360 mm 4.8 kg ピンコード x 2

\*仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

# 故障かなと思ったら

本機の使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項を確認してください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症状	原因	処置
録音/再生時にテープが回らない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源コードがはずれている。</li> <li>テープが最後まで巻きとられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源コードをしっかり差し込んでください。</li> <li>カセットテープを巻き戻すか、裏返してください。</li> </ul>
録音できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>カセットテープが入っていない。</li> <li>録音レベルが非常に低くなっている。</li> <li>カセットテープの消去防止用のツメが折られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カセットテープを入れてください。</li> <li>録音するときには、適切な録音レベルに調節してください。</li> <li>カセットテープを交換するか、ツメの部分ゼロハンテープなどでカバーしてください。</li> </ul>
音がかすれる。雑音が多い。音飛びがする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘッドが汚れている。</li> <li>ヘッドが帯磁している。</li> <li>テープの走行面が汚れている。</li> <li>接続が不適当。</li> <li>他の機器から発生する電氣的ノイズに影響されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘッドを清掃してください。</li> <li>ヘッドイレイサーでヘッドの消磁をしてください。</li> <li>新品のテープと交換してください。</li> <li>入出力の接続を確認し、正しく接続しなおしてください。</li> <li>他の電器製品(テレビ、蛍光灯、電気毛布など)から遠ざけてください。</li> </ul>
再生音が歪む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>テープがいたんでいる。(片伸びなど変形)</li> <li>録音レベルが高すぎる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新品のテープと交換してください。</li> <li>録音するときには、適切な録音レベルに調節してください。</li> </ul>
再生音が聞こえない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>デッキとアンプなどの接続が適当でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく接続してください。</li> </ul>
再生音が不安定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘッドが汚れている、またはテープがいたんでいる。</li> <li>テープがたるんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘッドを清掃してください。またはテープを交換してください。</li> <li>テープを巻きなおしてください。</li> </ul>
頭出しが正しくできない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>無録音部分が短い。</li> <li>曲の途中で録音レベルが非常に低い部分がある。</li> <li>会話が録音されており、会話の間などが無録音部分とみなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭出し機能は無録音部分が4秒以上で働きます。</li> </ul>
再生音の音質が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドルビーNRセレクターのセットが違っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>録音したときと同じドルビーNRを選んでください。</li> </ul>
他のデッキで録音したテープを再生するとき、メーターの示す値が録音時と異なる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本となるレベルは、デッキにより異なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>故障ではありません。</li> </ul>